



# 図書館だより



## 自由律俳句の**全国大会**で優秀賞！

「咳をしても一人(尾崎放哉)」など、五七五の枠にとられず自由な発想で俳句を詠む「自由律俳句」。その自由律俳句の全国大会で、2年1組長沼さんと1年4組篠原さんが優秀賞を受賞しました！ 北海道から沖縄まで多数の応募がある中で、本校から二人も受賞者が出るのは快挙です！

長沼さんの受賞作、〈**楽譜の世界に迷い込む小鳥の群れ**〉は、吹奏楽部の彼女ならではの作品といえるでしょう。また、篠原さんの受賞作、〈**まだぎこちない教室は母のお弁当の味**〉は、新入生の四月の微妙な空気感を見事に表現しています。文才豊かな二人の今後に期待大です。

### ☆**関口先生(国語科)のオススメ本 紹介**☆

薦めても読む人は少ないだろうな。というか、この文章自体も読む人がいないのでは。と考えると、この文章は透明な存在(目に見えないのだから『存在』という表現は正しくない気もするけれど)なのかもしれない。

こんにちは。関口です。国語を担当しています。趣味は駄文を書き連ねること。でも、人からお願いされて書くのはとても苦手で、思うに任せて書くのが好きです。

さて、今回皆さんにお届けするのは『お薦め本の紹介』というものです。大変気恥ずかしいものです。「こんな本読んでるんだ」とか「え〜っ」とか否定的というか引かれ気味な反応をされようものなら、きっと、その時、「ああ、やめておけば良かった」と後悔することが自明の理ですから。

時々、ラジオでゲストの書架を紹介する番組を聴くことがあります。書架というのはその人の内面というか秘密が納められているような感じがするので、それを紹介するなんて……勇気がありますよね。

それでも、万に一つ、いや、億の一つぐらいの確率で、「おっ！この本読んでみよう」などと思ってくれる人がいたら良いと考え、そんな『あなた』に向けて、勇気を発動し書き進めています。

前置きが長くなりました。もう、完全に某作家の影響です。本題に入る前が長い作家。その人の名はスティーヴン・キング。『IT』とか『ペットセメタリー』とか『グリーンマイル』とか、最も怖いホラー映画と評価を受けることがある『シャイニング』の原作を世に送り出している作家です。もともと国語の教師だったとか。

今回紹介するのは、彼とは関係なく、ちょっと短い時間で読めるエッセイです。

タイトルは『夢に迷ってタクシーを呼んだ』、筆者は燃え殻。

それではお薦めポイント。

その① ひとつひとつが短い話なので、長い文を読むのが苦手という人にも安心。

その② 変に説教じみていない。

その③ それでいて、なんとなく参考になるというか、違った視点に立てる。

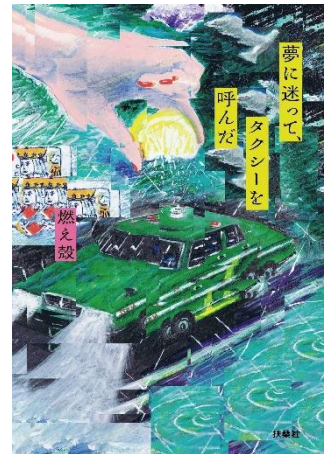
私は長い文を読むのはそれほど苦ではないので、③がこの本のお薦めポイントのポイントです。

納められているのは、例えばこんな話です。

筆者の同級生は、中学一年の時に不本意なあだ名を付けられてしまい、三年間過ごしていた。卒業を目前にしたある日、筆者に「本当は嫌なあだ名だった」と話す。中学卒業と同時にあだ名もおさらば……と思いきや、

読んだ人が「ああ、そういうことあるよね」と共感してしまうような、自分が経験しそうでない「そういうものかな」話とか「それは避けたいね」話とか。

高校生の皆さんにはちょっと大人視点の話が多いと思うけれど、「そういうことがあるのかな」という気持ちで読んでもらえたら良いかも。 あ〜あ、こんな文体で書きちゃって。試験だったら0点だな。



# POP 紹介のコーナー



No. \_\_\_\_\_  
Date. \_\_\_\_\_

## ヤキモチの答え

「話があります 今日放課後 4時10分この教室でー」

“恋”にも“友情”にも悩む「ヤキモチ焼き」と美人だけど“天然”すぎる「天然ちゃん」の甘酸っぱい恋。

中高生から大人気 Honey works の楽曲の小説化!

藤谷燈子/著  
Honey Works/原案

1年4組 S藤さん紹介!

# “自由律俳句” のすすめ

今回、二人が受賞した「自由律俳句」。せっかくなので、名作とされているものを二作品紹介します!



## 月光ほろほろ

たわむ

### 風鈴に戯れ

おぎわらせいせんすい  
荻原井泉水

月明かりに照らされた風鈴を詠んだ一句。芸術的です。



## うしろ姿の

### しぐれてゆくか

さんとうか  
種田山頭火

旅立つ姿を、なんとも格好よく表現しています。

図書館には、もちろん“自由律俳句”関連の本も取り揃えてあります! 興味があれば図書館まで!